

ピアサポ便い



～ピアサポーターの活動を紹介します～

さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オールでは、精神科病院に入院されている方を対象に、ピアサポーターを派遣して退院支援に協力させていただく事業を実施しております。

ピアサポーターの活動をより知っていただくために広報誌を発行しております。

今号については、最近退院された方(Aさん)の事例を紹介します。

<今号の内容>

- ◎依頼の内容
- ◎ピアサポーターの関わり
- ◎ピアサポーターとして
お手伝いできたこと
- ◎ピアサポーターの感想

今号の1枚



折り紙が得意な利用者さん。病院で一緒に折り鶴を作ったり、出来上がった作品を贈り物としてくださったりしてくれました。作品は、今もワン・オール内に飾っていますよ～。

◎ 依頼の内容

「地域で暮らす先輩として、お金や薬の管理、生活技術の獲得についてピアサポートの力を借りたい(リカバリーモデルを示す)」という意向で依頼を受けました。

◎ ピアサポーターの関わり

不安があるものの、Aさんも病院の外での生活に興味があるようでした。ピアサポーターの役割として、「退院に向けた不安な気持ちの共有」「家族や病院以外の関わり
の機会」などを期待されつつ、Aさんへの支援が始まりました。

○初回顔合わせ(2022年10月)

○病院へ訪問し面談

初回訪問の2週間後から、ピアサポーターの訪問開始。

○OGHの体験先への同行(2023年9月)

体験利用中のGHへ訪問、面談しました。

○退院し、体験利用していたGHへ入居

(2023年9月下旬)

GHへ訪問し面談。Aさんの希望もあり、GHへ毎週訪問しました。

○近所の散策

GH周辺のお店に行きました。

○転居先のGHの見学同行(2024年2月)

入居したGHでの対応が難しくなり、新しい住まいを探すことに。見学に同行しました。

○OGH転居(2024年3月)

転居先のGHへ訪問し面談しています。

◎ピアサポーターとしてお手伝いできたこと

・言語化のサポート

2023年8月の面談で、翌日にGHの見学を控えたAさんから「『GHに行きたくない』って言えない」と相談がありました。ピアサポーターより、病院のスタッフにAさんの気持ちを伝え、不安の解消に努めました。

また、退院・GH入居後、GHの職員から「Aさんが大きな声を上げる理由が分からない」という訴えを受け、ピアサポーターよりAさんに尋ねてみたところ、「幻聴と会話している」という答えが返ってきたため、GHの職員に説明をしました。

・人とのつながり

入院をきっかけに、家族とのつながりが薄くなっていたAさんは、入院中、「僕には仲間がいない」と話し、寂しそうな様子を見せていました。ピアサポーターが訪問を続けていくうちに、Aさんは「ピアサポーターが僕の仲間なんです」と話すようになり、ピアサポーターの訪問を楽しみにしてくれるようになりました。ピアサポーターのことを病気仲間と意識するようになってから、Aさんは幻聴のことなど、病気の経験も活き活きと話してくれるようになりました。

・まとめ

ピアサポーターとして、Aさんが支援者に伝えにくいと感じていることを、わかりやすく伝えるお手伝いのできたのではないかと感じています。そして、仲間として、Aさんが元気を取り戻すお手伝いが出来たのではないかと感じています。

◎ ピアサポーターの感想

Aさんは環境の変化や先行きが見えないことが苦手です。そういう苦手さを抱えながらも、GHなどでの社会生活に適應できるよう頑張っている、そんなAさんを少しでも応援していきたいです。



「仲間がいない」と話していたAさんが、「ピアサポーターさんは僕の仲間」と話してくれたのが嬉しかったです。今後の生活について、まだ不安が多そうな印象を受けますが、そんなAさんをこれからも応援していきたいと思っています。



<編集後記>

今回、Aさんの入院中から退院後までを一通り初めて関わらせていただきました。とても濃い経験になりました。ありがとう。(金)

記事を作りながら、「いろんなことがあったなあ」と思い返していました。いろいろなことが良い思い出です。ありがとう。(鈴)。

私はお会いしたことはないのですが、ピアサポーターとして素敵な関りが出来たケースだと感じています。ありがとう。(池)

ピアサポ便利 2024年5月発行
編集発行/さっぽろ地域づくりネットワーク
ワン・オール
〒064-0808 札幌市中央区南8条西2丁目
市民プラザ星園302号
TEL: 011(213)0171
FAX: 011(213)0172
e-mail: sapporo@one-all.net

